



創誠健和



旭川中学校 学校通信 11月号

令和4年11月30日発行

ありがとうございました！

1・2年『教育相談』・3年『三者面談』

昨日、期末考査を終了し、早いもので、今年も残すところ1ヶ月余りとなりました。新型コロナウイルスの世界的な流行から4年目の冬を迎えますが、ドーハで開催中のサッカーワールドカップはもとより、今年は、コロナ禍にあっても、多くのメディアで、行動制限が徐々に解除されている様子や、子どもの活躍の様子などが多く報じられるようになってきたと感じています。このような報道にふれるたびに、「今」をコロナ禍以前と変わらない、いや、それ以上の時間にしようと奮闘されている方々の努力と同時に、すべての子どもたちが、実感を伴って自己有用感や自己肯定感を抱く機会や場面を用意することが、いかに大切かを今更ながら考えさせられます。



我が国の子どもたちの自己有用感や自己肯定感については、以前から、他国に比べて低い状況にあることが指摘されてきましたが、加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による生活習慣の変化や教育活動の制約によって、さらなる低下が懸念されています。

そのような中、学校を取り巻く状況も厳しさを増し、「夢」を探し続ける子どもたちの「今」に伴走し、結果だけにとらわれることなく、努力のプロセスにも焦点を当て、わずかな頑張りであっても幾度でも重ねて認め、ほめる工夫の重要性を実感しております。

3年生は大切な進路選択の時期を迎え、それぞれの目標に向かってスタートを切りました。2年生は実質的な学校のリーダーとしての行動力が問われています。すっかり中学生らしくなった1年生も、もうすぐ先輩になります。

全ての教科で全国平均を上回った「学力学習状況調査」、管内大会、全道大会、そして全国大会に進出した各部活動、全国一のGOLD金賞に輝いた吹奏楽部の活躍。

地道ではありますが、人権作文や税の作文、美術作品の各種コンクールへの出品と多くの賞の受賞。加えて、車いす贈呈を目指した地道なプルタブ収集。地域ゴミ拾いや花壇整備等々。

今年も旭中生は、当たり前のように、これまでの伝統を受け継ぎながら、新たな伝統を創り上げています。

今年を振り返るこの時期に、今一度、保護者や地域の皆様と共に、旭中生に対して、感謝と拍手、そして今後に向けたエールを贈りたいと思います。生徒の皆さんも、自らの実践や仲間の実践、仲間とともに行った実践はもとより、保護者や地域の方々からいただいた活力溢れるエールや多くの寄付金としての支援などについてもしっかりと胸に刻み、自らのPRIDE

として下さい。師走はあっという間に過ぎ、新たな年を迎えることとなります。そんな慌ただしい時期ですが、今年一年を振り返り、改めてそれぞれの良さを認め合う、そんな時間にしていきたいと考えています。



左写真の定期演奏会時にポテトが取材に来ていました。すでにテレビ放映されましたが、以下の方法で放映内容を視聴することができますので、ご覧下さい。

【ケーブルテレビの放送を見る方法・手順】

- ①「旭川市hpホーム」で検索
- ②広報・報道（広報番組）
- ③わくわく旭川
- ④過去の放送（令和4年度の放送）
- ⑤放送日『令和4年11月19日』

「あさひやまプライドプロジェクト」

「あさひやま」には、こんなにも素晴らしい自然や施設がある。「あさひやま」を愛する人の志が込められた実践には、「あさひやま」の多くの魅力を統合するコンセプトがある。

「あさひやま」は、医療や福祉、そして障がい者施設が充実している地域なのです。

本校での美術作品交流をきっかけに、近隣施設と素敵な出会いをさせていただきました。特に、「みやびの森」から出品された作品の一つにあった「鬼滅の刃」の折り紙作品は、「旭川市高齢者文化祭金賞」を受賞するなど、児童生徒の関心を引きました。



「あさひやま」に所在する施設のストーリー「Pride Project」第5弾

「最良の医療」と「介護サービス」を通して社会に貢献し、地域と共に歩み続ける「みやびの森」

医療法人「仁友会」が経営する介護老人保健施設「みやびの森」は、間もなく創立 20 周年を迎え、あさひやま地域に根ざす、旭川市の介護医療を支える基幹施設として大きな役割を担っています。高齢者や要介護の方が 80 名入所しており、1 日平均 25 名の方がデイケアを目的として通所。みやびの森に 10 年以上勤務する小林さんは、東旭川は親族のように優しく接してくれる方ばかりで、畑で取れた野菜を「持っていきな」と話しかけて下さる方がいらっしやるほどです。また、地域の歴史に詳しい方が多く、先祖の努力に対して誇りをもって生活されており、尊敬しています。と笑顔で語ってくれました。

双方向の国際交流の観点から
地域振興につなげていきたい

小林 徹也 さん <33>
みやびの森 総務課主任



新 美 さと子 さん <65>
7年間、ずっとみやび一筋



施設空間が広く、リハビリに最適で職員が優しい「みやびの森」、7年間、ずっと「みやび」一筋です。手が自由だった頃は、編み物などの細やかな作業が趣味でした。今もきめ細やかな作業が好きで、手工芸品制作に取り組んでいます。学校にお貸しした作品「鬼滅の刃」は、右手だけを駆使し、1年をかけて制作しました。現在は、新たな制作活動を模索中です。制作するたびに折り紙の折り方に変化をつけたり、寸分違わず丸めたりする技術が上達していく自分がいて、とても楽しく活動しています。何しろ、作品を目にした若い世代の人たちに評価してもらえることがとても嬉しいと笑顔で話をしてくれました。

あさひやまの次世代に贈る メッセージ！

数年前に職場体験で来所した旭中の生徒さんとお話をする場面がありました。礼儀がしっかりしていて、優しく話しかけてくれた姿に好印象を抱いたことを覚えています。生徒の皆さんは、日々の暮らしの中で、うまくいくことばかりでしょうか。当然失敗や不運な事が起こることもあるかと思いますが。私も左手が動かなくなったり、最初はすごく落ち込んで、すべてが嫌になってしまうことがありました。しかし、自分が大変な状況に置かれたときこそ、自分らしい発想や工夫を大切にしながら、道を切り拓いていけば、必ず朝日が昇ることに気がつかされました。また、そこには人の支えがありました。皆さんは「あいさつ」を大切にしていますか。人の暮らしの中で、「あいさつが一番大事」です。あいさつがなければ、人と人とのつながりにその続きはありません。

皆さんは、これから、勉強や仕事、人間関係、恋愛などの中で、楽しいこと、辛いこと、さまざまな経験をしたいと思います。悔いの残らぬよう自分らしい工夫をしながら乗り越えようとするを、プラスに考えて楽しめるようになってほしいと思っています。

